



静中・静高関東同窓会  
 会報 第38号  
 平成6年12月19日発行  
 編集人 上杉重吉

# 二十回を迎えた 関東同窓会総会 盛大に開催される

六月二十四日(金)梅雨の谷間の蒸し暑い日であったが、同窓生の約二〇〇名が御茶ノ水駅近くの新日本証券地下食堂へ集まった。二十回を迎えた今年の総会は、最年長の四二期から今春卒業した一一〇期までの幅広い集まりの同窓会となった。

総会は、まず校歌を高らかに斉唱して始まった。大石巖関東同窓会会長(五三期)から「関東同窓会の一層の発展のために、まず同期が横糸として結束し、上下の期に縦糸として結び付け、その力を関東同窓会に結集させて欲しい。なお、本日記

六月二十四日(金)梅雨の谷間の蒸し暑い日であったが、同窓生の約二〇〇名が御茶ノ水駅近くの新日本証券地下食堂へ集まった。二十回を迎えた今年の総会は、最年長の四二期から今春卒業した一一〇期までの幅広い集まりの同窓会となった。

総会は、まず校歌を高らかに斉唱して始まった。大石巖関東同窓会会長(五三期)から「関東同窓会の一層の発展のために、まず同期が横糸として結束し、上下の期に縦糸として結び付け、その力を関東同窓会に結集させて欲しい。なお、本日記

会場一杯に、賑やかに続いた。今年も六七期の諸氏のご尽力による安倍川餅、わさび漬、鯉の角

煮等の郷土の名産が並べられ、会場の料理には黒はんぺん等故郷の香りがあふれ、近くて遠い静岡を懐かしんだ。

世代を越えた懇談の輪は二時間余りにおよんだ。

締め括りとして若き元応援団長の指揮のもとに校歌を四番まで合唱し、再会を約して幕を閉じた。

なお、今回出席した参加者を十

- 年毎の期別でみると次のとおりである。
  - 四〇期代 九名
  - 五〇期代 二九名
  - 六〇期代 四九名
  - 七〇期代 四一名
  - 八〇期代 十五名
  - 九〇期代 七名
  - 一〇〇期代 五四名
- (68期 兩宮明生記)

## 中、静高関東同窓会 平成6年度総会



写真上…大石会長の挨拶。 下…先輩と懇談する学生諸君。

# 同期会など

## 四三期

九月二十日(木)三笑亭での月例昼食会を開いたが、今回で丁度百五十回になった。

四三会員も現在員四十三名で、その内療養中の方も多く毎回出席する仲間も残念ながら次第に減少していった。

今回は浜松から竹村千幹君が久しぶりに出席されて、常連から大歓迎を受け、例会もすこぶる盛り上った。会員も元気な連中は趣味や旅行などで入れ替り立ち替りの出席で、今回も常連の高須彰・八木友治両君が欠席で、出席者は六名となった。

吾々が米寿を迎える平成十年の十一月にはこの三笑会も丁度二百回を達成できる。また、毎年開催の四三会もこの時に第百回を迎えるので、お互いに健康に留意してそれまで頑張り、四三会の坤尾を飾る記念すべき会合にする覚悟である。出来れば全員で二十一世紀まで見聞をして行きたいものである。

で話題も弾み、三笑亭の料理で飲を尽くしたが、次の再会を約して夕刻解散した。

出席者は次の通りである。  
磯谷幸一郎 河村 亮  
近藤伊佐男 竹村千幹  
堀田利郎 見原三郎  
(西沢純三)

## 五二期

### 75歳の修学旅行

「ようやく春らしくなって参りました。皆さまお元気に過したの」と存じます。

扱て昨年末の会合に於て私めが本年度の幹事を仰せつかりました。久しぶりに一泊もよかろうと考へ少々金がかかりますが(汽車賃込み4万5千円)別紙のような企画をしてみました。ご検討下さい。参加希望者が20名程度あるといいなと思っております。

尚、静岡の諸兄には川野辺幹事から連絡して貰っています。お返事は同封葉書で3月末までにお願致します。ご案内まで。平成6年3月10日

懇親会幹事 川島 喜八郎  
静中52期同期会々員各位

(註・川島は元本田技研副社長) 文面を素読しただけでは、えっ1泊4万5千円!? 一体何処へ? とびっくりするのだが、一寸別添の案内書に眼を通すと、もう一度啞っ! と驚く。

精緻を極めた案内書をそのまま転載できればいいのだが、実際にはそうもゆかないので……。  
「鈴鹿・伊勢・志摩観光」

瞳目に値するメインタイトルとして観光のポイントが謳われている。初日訪れる鈴鹿ではホンダで最大規模の鈴鹿製作所、ホンダの足跡を辿る「ホンダ コレクション ホール」の見学、そして最後にあのF1で名高い国際レーシングコースをバスで見学走行するというのだ。

そして二日目、ここまで来て伊勢神宮の参拝は欠かせない。何としてももう一度だ。そして更に足を伸ばし、養殖真珠誕生の地「ミキモト真珠島」を探訪するところである。

本来関東52期の同期会ではあるが、今回は企画のスケールが大きく、今回は企画のスケールが大きく、今回も異性もあるので、静岡同期会に積極的参加を求め、結局関東から8名、静岡から12名合計20名が賑々しく参加することになった。

## その後の同窓会活動

(平成6年6月~11月)

### ◆第9回印高会ゴルフ

6月3日(金)

箱根カントリー倶楽部

参加者: 28名

優勝: 三浦位通(77期)

2位: 中村龍二(70期)

3位: 野沢正憲(64期)

### ◆役員会

6月21日(火) 18時30分

新日本証券 地階喫茶室

出席者: 12名

・総会準備など

### ◆第20回総会

6月24日(金)

別記報告を参照

### ◆幹事会

7月22日(金) 18時30分

新日本証券食堂

出席者: 36名

・総会報告、意見交換

・会報37号発送依頼 など  
◆運営打合せ会(奥沢・上杉・田中・薬科の四副会長による)  
9月15日(木)、10月10日(月)他

### ◆同窓会合同役員会

10月21日(金) 14時

同窓会館会議室

関東支部より奥野副会長出席。

### ◆第10回印高会ゴルフ

10月28日(金)

箱根カントリー倶楽部

参加者: 35名

優勝: 宮代省一(70期)

2位: 平岩正史(87期)

3位: 松永秀夫(77期)

### ◆同窓会平成6年度定時総会

11月5日(土) 14時

静岡 クーパール会館

関東支部より奥野・上杉副会長と月見里顧問が出席。

### ◆学生の会による第2回同窓会

11月12日(土)

別記報告(13ページ)

順、村松申吉、望月登平。それから6ヶ月が過ぎて10月4日、いよいよ出発の朝だ。

田中貞司、新美 弘、服部雅雄、廣川 聡。静岡勢は幹事川野辺芳郎ほか伊藤恵二、居初敏彦、伊奈晋、荻原 弘、北村梯祐、佐藤鏡一、服部迪雄、深津秀夫、松下 静岡組は11時49分着のひかり107号



“静中52期会” 本田技研工業(株)鈴鹿製作所視察会 H.6.10.4

両者殆んど差のない時刻に着く訳だ。

11時52分東京組が降り立つと早速幹事が人員をチェック、迎えに来てくれた鈴鹿サーキット職員二人に導かれて近鉄ホームへ。

12時10分に名古屋を出発した近鉄特急は12時50分近鉄白子駅に着。駅西口で待っていてくれた鈴鹿サーキットのマイクロバスに乗って、最初の訪問先鈴鹿製作所に向った。車中このバスは2日間の道中ずっと面倒を見てくれるという有難い説明を受けた。

14時30分製作所に入るや笠井所長初め幹部の方々の温い歓迎を受け、会議室で諸々の質疑に応じて頂いた。

それから製作所が世界に誇るライン・Bに入り、プレスから溶接、組立、出荷までを丁寧に見学して歩いた。一本のラインに關つて働く人間とロボットの渾然たる融合にウーンと唸らされたままの一時間だった。

そして、さあよいよ今回の旅行の最大眼目であるF1レーシングコースとの対面だ。

テレビでしか見たことのないコースに入り、メインスタンド前から1コーナーに向けて走り出して驚いた。えっ、これがあのF1の

：？ 狭いのだ、余りにも狭く映るのだ。あの観衆のどよめきが空気を揺るがすメインスタンド、スタートが切られ、チェッカーフラッグが打ち振られるメインスタンド真ん前のコースが、テレビで見

て想い描いた華麗さ、宏壮さを裏切つて見事に狭いのだ。

セナが、プロストが、そして日本の中島が、死力を尽くして戦つた鈴鹿サーキットが、実はこんな

に狭いコースだったとは…。川島がコースの狭い理由を説明してくれた。このコース、実は当初オートバイ用に造られたのだが、ホンダが四輪製造からF1に乗り出した時点でコースがF1用に改造されたのだという。

素人目にコースの狭さが気になるのは兎も角、この狭さが却つてレースの難しさ、激しさ、恐ろしさ、を煽り立てる効果を生んでいるのではないだろうか。

1コーナーからS字カーブ、バックストレッチ、ヘアピンカーブ等々迫真のレースを彩る多彩なコースの佇まいは、ああこれが本田のF1サーキットなんだと、改めて沸々と胸にこみ上げてくるものがあった。

ホテル・メヌエットMの夕食はグランプリホールウイングで豪華

に行われた。美酒、美食の飲み放題、食べ放題、随分盛り上つたが、会場だけでは治まらず部屋に帰って朝まで飲み続けたという年の分らない猛者もいた。

2日目は7時30分和洋食バイキングで朝食を済ませて8時30分チェックアウト、色々と感銘の深かつた鈴鹿に別れを告げて伊勢路に入った。内宮に入ったのが10時丁度、早速宇治橋を渡って手を淨める。

参道の清らかな玉砂利を踏んで拝所に立つと「……忝けなさに涙こぼるる」と詠んだ西行法師の心情が偲ばれてくる。

それにしても大変な参拝客だ。修学旅行の生徒をはじめ老若男女の団体客が続々と後を絶たない。参拝者は例年600万人程いるそうだが、式年遷宮を迎えた一昨年は838万人を数えたと謂う。

内宮参拝を終るとまたサーキットバスに乗り、名だたる伊勢志摩スカイラインを走破して鳥羽に向う。

12時鳥羽に到着すると早速ミキモト真珠島を訪れ、昼食後約一時間程いろいろ島内を見学して歩いた。先ず海女さんの潜水の実演、30年程前に見た時は逞しい地元の小母さんたちだったが、今はなん

とすらりと整った美形を揃えて見  
る目を楽しませてくれる。  
続いて養殖場で真珠を育成する  
段取りなどを見学、あとは御木本  
幸吉記念館で翁の苦節と栄光の道  
のりを見せてもらった。

見学を終了し会館前の広場に立  
つと、どうやら盛沢山の旅程も大  
団円を迎えたなと思う。幸吉翁銅  
像の前で記念撮影を終え、近鉄鳥  
羽駅に集合して帰路につく。

14時13分発の特急は鳥羽を出る  
と宇治山田に停るだけで、あとは  
名古屋までノンストップだ。

昨日昼に名古屋を出てから再び  
名古屋に戻るまで凡そ30時間、び  
っしり刻みこまれたスケジュール  
をこなして、充分な満足感の傍ら  
さすがに若干の疲れは隠せないよ  
うだ。特急の車内にそこはかと  
ない静けさが漂う。

15時44分名古屋駅到着、さあ終  
ったという感じ。揚った幕が降り  
たのだ。

東京へ帰る面々は15時55分発の  
ひかり24号、静岡のメンバーは16  
時14分発のこだま438号だ。

東京、静岡の中間を選んで熱海  
或は湯河原の一泊旅行などは聞々  
あったが、翌日は朝食を済ませて  
その場で解散というのが通例だ。

今回のように名古屋駅を起点に  
して2日間びっしり行動を共にし  
たあと、また名古屋駅に戻りそし  
て別れるというのは例がなかつ  
た。

十四、五歳から教えて60年振り  
の修学旅行じゃないかと嬉しい声  
を挙げる者もいる。いや待てよ、  
それにしても「75歳の修学旅行」  
というのは些か分を弁えぬ独りよ  
がりかな。

うーん、それでは今の立場に相  
応しく「75歳の終学旅行」と銘打  
つてこの稿を閉じさせて頂こうと  
思う。

兎角のんびり自慢の我々だが、  
忘れてならないことがある。

名古屋駅新幹線ホームの出迎え  
から帰途鳥羽駅の見送りまで、一  
瞬の抜かりもなく密着して面倒を  
見てくれたスズカサーキットラン  
ドの社員引地伸之さんに、我等わ  
がままメンバー20人の本当に心か  
らの感謝の辞を表わしたいと思  
う。本当に有難うございました。

そして最後に、鈴鹿製作所笠井  
所長を初め9800人の従業員か  
ら大先輩と仰がれ、敬愛される  
我等がクラスメイト川島喜八郎君  
の何時に変わらぬ卓越した発想と無  
類の行動力に、更めて同行一同の  
脱帽最敬礼を呈上して筆を擱きた

い。  
皆んな、どうもお疲れさん！  
次回までお別れだ。また会う日  
を楽しみに、さようなら！  
(廣川 聰)

### 五三期

#### 一、平成六年総会

今年是在静岡君のお世話で四月  
二十一・二十二の両日、焼津浜当  
目の簡易保険保養センター「かん  
ぼの宿やいづ」で行なった。先年  
の松風閣に近く、駿河湾の眺めと  
温泉が売物のホテルである。

参加者は写真の二十九名で、佐  
藤雄馬君、鈴木正久君は何年振り  
だろうと話し合う顔も少年時代と  
変らない懐かしさであった。だが、  
福地、奥野、市川等の常連諸君が  
見えないのは淋しい。関東から桜  
井、白鳥、徳永、松前、山菅、月  
見里の六名、関西から志田、九州  
から小嶋、松永(文)の諸君が遠路  
参加した。

午後三時受付開始、久しぶりの  
挨拶が交される中に、勝又君も結  
構元気で夫人と共に杖を曳いての  
姿に喜びの声が迎える。  
四時記念撮影、写真屋がローマ  
写真スタジオとは昔が思われる。  
総会議事は海野君の司会で片



静岡中学53回同期会 1994年4月21日 於 かんぼホテルやいづ

沢、清水両幹事の挨拶報告。三枝君から叙勲祝いに対する挨拶謝辞の後、物故者特にこの一年間に亡くなった左の六名の諸君の靈に黙禱、冥福を祈った。

中原孝博 平成五年一月一八日  
杉村秀喜 同 五月二八日  
大石文雄 同 八月四日  
沖多三郎 同 九月二十日  
藤本 保 同 十一月二八日  
増田敏郎 同 六年一月三十一日

他に相羽二良君が昭和六三年八月二日死去の事が今回判明した。次いで遠来の小嶋、松永両君の首頭で乾杯、宴に入る。料理も仲々豊富で一泊一万五千円会費とは考え難い。ヤッパ焼津の魚はエエナ、と食べたり飲んだり。話は健康状態から悪童物語に飛んで、そここに笑い声があがる。長嶋夫人の「別れ舟」など歌で盛り上げる中、予定時間となって校歌、万歳で中締めとしたが、名残り尽きず延長戦に入る者、ビール片手に部屋で二次会の者等々遅くまで楽しんだ。

翌日は朝風呂に入り、八時シラス、黒ハンベンの朝食に集った所で流れ解散とし、幹事さんのお世話を感謝しつつ若葉の焼津に別れを告げた。

### 二、消息

徳永悠久君。健康診断で胃に異常を発見、六月二十日埼玉医大総合医療センターに入院、三枝君のお声懸りで特別扱いを受けて七月五日手術、経過良く現在自宅静養中である。

森下洋君。入院中であつたが六月二十八日死去。自宅に近い松庵の西教寺で六月三十日通夜、七月一日告別式。通夜には奥野君、告別式には月見里が会葬、この間親交があつた小野君が諸事世話し、また友人を代表し弔辞を述べた。

島田良彦君。入院中九月十五日死去。中野宝仙寺にて十九日通夜、二十日告別式。奥野、志田(寿)、宗像、月見里が会葬した。

三枝栄一君。四月胆嚢癌で死去の由、夫人からお便りがあつた。福地誠也君。自筆の暑中見舞を頂いたが、七月二十一日リハビリ病院を退院、自宅で訓練頑張るの由、御健闘を祈るや切。

長阪光夫君の暑中見舞は、昭和六十三年以来静岡スポートセンターに毎日通つて約一時間トレーニング、後サウナに入って帰宅するところ。その後ビールにするや否やは不明だが、以て範とすべきであらう。

いずれにせよ古稀を過ぎて先を

急ぐ病葉が散り始めている。お互

積極的に健康管理と運動に努力しましょう。(月見里得知郎)

### (写真説明)

前列右から、鈴木(巖)、鈴木(正)、松永(文)、徳永、長嶋、同夫人、勝又夫人、勝又。

第二列右から、松永(脩)、芹沢、佐藤、小嶋、佐野(徳)、塩田、榎矢、小宮。

第三列右から、仲野、山川、海野、志田(清)、司馬、三枝、清水(四)、後列右から、長阪、山菅、桜井、松前、白鳥、月見里。

### 五四期

六月二十四日の関東同窓会総会当日、佐野圭司君の受章をお祝いしようと、五三・五四期の有志が合同で祝賀会を催した。

五四期では、安東、居初、大藤の三君に小生、それに遠路静岡から望月逸夫君が参加した。

総会の報告が終わつて懇親会に入る前に会場の一室を借りて五三・五四期の出席者全員が集り、安東君が代表して記念品を贈り祝辞を述べる



↑安東哲夫君と佐野圭司君(右)

佐野君から謝辞があつた後、会場に戻り今度は代る代る佐野君を初め列席の諸君と旧交を温めた。

これよりさき、六十期の上杉君が佐野君の受章の報をいち早くキヤッチし、佐野君に会報の原稿を依頼したところ快く受けられ、会報37号のトップへ最近の写真とともに寄稿して頂き、錦上花を添えた。

### 訃報

我等のハンベイさんこと篠原範平君が療養の甲斐なく、先頃逝去された。

以前、フジタの寮長をしていた頃、会報の同期会だよりに同期の近況を載せるために藤が丘寮を訪ねて楽しく対談したことがあつたが、もう彼とも会えなくなつたことが残念でならない。

諸君と冥福を祈りたい。(庵原備次)

### 五五期

これは悲しき性(さが)とでもいうべきか、吾々年配が集まつて酒が入ると決つて話題の中心は戦中戦後の思い出になる。軍隊時代の一年は十年位の記憶として残るといふ人もいるが。

小春日和というには少し早い十月十四日(金)、関東五十五期会が例年の通り四谷の「山宮」で開かれた。今回も忽ち紅潮した面々が声高に交わす話題はいつもと同じで——とは言つても具体的な内容は異り、また時代と共に少しずつニエアンスも変わるので興味は尽きないのだが。

思えば吾々七十台の来し方は初め三分の一が軍国時代、中の三分の一は戦後耐乏のなか、復興に邁進した時代、そしてその結果飽食と共にもたらされた各種歪(ひず)みの時代。終戦当時、若くして死んだ友に対する後めたさと共に、自分は生きていて良かったと嘯みしめたあの解放感はどうなったのだらう。戦争を否定し、反省するのに否(やぶさ)かではない。しかし八月十五日を境に地獄が天国に変わったともいふのだらうか。

紙面の都合で詳述しないが、例えば靖国神社問題、従軍慰安婦の問題などタブーみたいなものがある。——またはあると思ひ込んで、本当の意味での言論の自由があるのだろうか。極論すれば右に傾いた大浪がその反動で左に揺れる中で翻弄されているに過ぎないのではないか。延々と飛び交う喧噪の中で結論を得ないまま——勿論結論が出るような話題ではないが、お互に再会を約してお開きになった。

当日の出席者は石神庸一、宗四朗、武井富夫、辻弘、戸塚正五、法月重雄、日比光明、山本孫一の八名(首都圏在住の同期生総数三十三名)。

なお、婦路、有志の一部が誘い合つて、折柄開催中の栗田行雄君(六四期)の個展を観賞、芸術の秋を楽しんだ。(日比光明)

### 六四期

「たのしみは心をおかぬ友達と笑い語りて腹をよる時」幕末の歌人橋田寛が詠つたが、正に我等六四期生も七月七日花のお江戸は新橋、新橋亭に、本年も千葉、埼玉、神奈川、静岡より二十六名が相集い歓談哄笑した。

昭和五年生れの我等も還暦をあ

つという間に過ぎて、皆それぞれ職場で重責を完遂し、第二、第三の人生に入っているが、意気軒昂にして毎年出席数が増加するのは誠にたのしい限りである。

渡辺素夫君の名司会で始まり、昨秋逝去した大村達郎君のみ霊に黙禱を捧げ、病氣入院治療中の名波倉四郎君の状況を説明した。久し振りに出席の時田勝博君、住所を静岡県清水に移したので前回脱会すると言っていたが、静岡の会合より東京の雰囲気が大変良いのでこの次も又是非出席したいと挨拶し、乾杯の音頭をとった。

たちまち昔々の時代に戻り岳南の空や安倍河原となる。益頭尚文君、今迄人生五〇年とおもつたが今後は百十三歳まで元気で生きると宣告。静岡より毎年出席の山下啓也君、昭和十八年静岡市内国民学校卒業生を一同に集める連合会を昨年より始め五月五日に市の文化会館で公演リサイタルを挙行した。

同期の井田晴夫、鈴木高保、渡辺進式君等も大活躍、これからも「余計な御世話」運動を続けたいと話した。

東京にもう四〇年近く住み、東京人とおもっているのに、今入口で仲居さんから静中の方ですかと



を戴いて、同期生の最後まで生き残ると宣言。

次いで鈴木明郎君、今は逝去した大村達郎君が戦後間もなく大雨の中自宅より三菱の校舎迄片道二〇軒近く自転車を通学、全身スズぬれで二時間目頃登校してきた頑張り屋だった思い出を語る。

岩本吉雄君、一昨年心臓発作で入院、その後経過順調、医師より酒・煙草・女・運転全部ダメと言われたが、目下酒だけホドホドに飲んで居る、この年になって江戸下町の住みよさを実感、時に魚戸天神祭には先棒をかついで居る。

吉井駿亮君、我々は青春時代を毎日死と隣り合せて生きて来た、だから死が今すぐ来ても驚きはしない、第二の人生として吉井憲を作りたい、そして諸兄に骨董を進呈したいがまず湯呑より始める予定、御期待を乞うと。

その他、浅井幹夫、塚本光彦、

長島健、長谷川直和、松下一男、八木綱三、柳田義、杉本哲、竹内豊など諸兄の楽しい近況報告があり、時の経つのを忘れた。

栗田行雄画伯の個展が今年も十月十日より虎の門「いそがや」ギャラリーで開催、大勢の見学者で賑わった。「仙川の飯桐」はとも良く画けていると思った。

十月九日(日曜)天気は薄曇、絶好のゴルフ日和。毎年開催のこの大会も今年は西富士・菊川・伊豆大仁と三回も挙行され、二十回の記念大会となった。残念ながら参加者は十二名と一組減つたが、かえって皆の意見がいつもより活発に出て、プレー後のパーティーが大変盛り上がった。

優勝は61期の大石次男先輩で、三回目の優勝、二位は漆畑茂君、バーディありダブルバーあり入りの激しいプレーだったが初入賞おめでとう。栄あるプレーは石原良昭君。ベストグロスは伊藤剛君。前回、前々回優勝の神谷武男、山本和彦両君は大仁の風で悩まされた。

村上喜代二、永田進一両君はあと一歩及ばず三、四位。佐野旭、渡辺宏一、風間政彦君と小生は一日楽しい芝刈りをした。

来年桜の咲く頃、西富士ゴルフ

言われた。何か独特な気配があるのだろうか、と仲野実君。昨年は百十五歳まで生きると言ったが、今は百三十歳まで延長する。その秘訣は平均以下で逝去した人の分

場での再会を約して東西に別れて帰路についた。(野沢正憲)

## 六七期

### 67期汽車通会

「戦中戦後の混乱期、時刻も当てにならない蒸気機関車にぶらさがって静岡を目指して通い、駅ではDDTを首から吹き付けられた思い出など、ミナトヨコハマの中華飯店に於いて、懐かしい顔ぶれで歓談のひとときを過ごしたいと思えます」

まさに中学、高校時代(通算六年間)の汽車通学の思い出を呼び起こす名文句の案内状であった。

幹事は黒田秀幸君である。

平成六年一〇月二日、小雨に烟る山下町中華街の横通りにある九竜(クローン)に、夕刻六時からぼつぼつのご到着である。やや太り目の気さくな明るい女主人が愛想よく迎えていた。若い頃はミスヨコハマの時代もあったという。

月初め私は家内を連れて下見をしておいた。二階の宴会場へは行かなかったが、一階の椅子席に坐った。客は少なかつたが、何となく庶民的な雰囲気好感が持てた。団欒談笑には相応しかろう。単品のオーダーだったが、味は良い。

いい作りだ。さすが料理教室を主宰する黒田君の推薦する中華飯店である。下見と言えば、焼津から川口達郎君も家族同伴で訪れたという。

東からは企業城下町日立に住む丸山英久君が、西からは静岡県内各地で様々に活躍している太田雄造、川口達郎、小坂博、中村宏、法月郁雄、増田智一、光木徹の諸君が元気な顔を見せた。対して地元関東からの小倉牧夫、加藤友行、梶原由三、川上剛二、黒田秀幸、関根和郎、成岡英彦の諸君は熱烈歓迎の趣であった。

小倉、加藤、成岡の諸君は初参加である。更に今回は、一年先輩の安田正弥氏と中村夫人が特別参加をして下さり、賑やかさを加えてくれた。還暦を過ぎても、表情はみんな現役顔だ。

汽車通会は今が三回目。一日は西の汽車通だけだったが、東も一緒の方が話はずむだろうと二回目から東西合同の汽車通会となった。一回目と二回目は、同期生の影山誠君が経営する安西の「かきや」が会場であった。そう言えば、一回目に出席した山政の山口政市郎君がこの八月に急逝した。

独特の語り口はもう聞けない。告別式は焼津の松風閣で行われた。

同期生の山川静夫君が司会を勤め、小学校からの学友小坂博君が弔辞を読んだ。葬送曲はテープで流されたが、曲は山口君が大好き

だったという「マイウェイ」であった。「マイウェイが好きだと知っていれば、自分も得意な曲だから是非唱ってお別れしたかった」



とは声楽家の同期生大石岱介君の式後の弁であった。もし事前にわかっていたら、司会が山川君であつただけに、何とも残念の一語に尽きる。

生きている事は本当にいい事だ。人の生きざまにもいろいろあるが、生きている利那利那は喜と楽に思いを集めて、今は中老の楽しみを噛み緊めたい。

こだわりのカメラマンに記念写真を撮ってもらったあと、宴会は黒田君の歓迎の挨拶から始まった。九竜を選んだ理由の説明もあった。山口君を偲んで黙禱してから乾杯となり、川上君の発声で杯を上げた。談論風発、各々があつち坐り、こちち坐りで宴会の時間の流れは早かった。不本意に欠席の稲川雅久君から、仕事先の蒲原の名酒の差し入れがあり、名酒に酔いを覚えながら、あれを飲みこれを飲み、あれを食べこれを食べて二時間余り、最後は定番の校歌斉唱で締められた。

次回は小坂君と成岡君の計らいに託して、熱海から東京で行なう事になった。関係同期生三九人のうち、今回は一六人の出席であったが、次回は是非とも更に大勢の参加が実現するよう期待する。

### 第十回印高会に優勝して

70期 宮代 省一

「大浦谷の湯けむりが少ない日は晴れ」の言い習わしどおり、まずまずの天気のもと、名門箱根カントリークラブ第十回印高会ゴルフコンペが開催されました。43期の大先輩から87期の若者まで三十五名が参加しました。53期大石巖會長のお世話で、恒例となっている箱根の朝の気分は格別で心弾む挨拶があちこちで交されました。

スタート前のミーティングが終ったところで、大石會長から発言がありました。「今日はブービー賞は最下位の人で、罰金一万円を払うこと。なぜならば、そうすれば皆、一生懸命プレーするだろうから。」いつに変わらぬ會長の若々しくユーモア溢れる「心」に感銘を受けた次第です。後で辞書を引くと、「競技会で最下位の人—ウェブスター」とあり、これが本当のブービーと、ひとつ利口になりました。

さて、私の当日のゴルフは……まず出だしのイン1番(パー3)では、ダボ。この後どうなることかと心配しましたが、終ってみれば42・40、ハンデ10の72(パー70)で、ベストグロ優勝と出来過ぎて、

我ながら驚きました。

そこで、心・技・体・つきについて考えてみますと、まず「心」。ゴルフは同伴競技者との戦いではなく、コースとの戦いである、と言われているものの、どうしても一緒に回る人が気になります。その点今回は48期の近藤希賢、原崎進一の両先輩と回らせて頂き、適

当な緊張感があり、これが良かったのです。「技・体」については、五十八歳とだけ記させていただきます。最後に「つき」。15ヤード以上のロングパットがカップの向側に当り空中高く舞い上がって入ったり、芦ノ湖から流れ出る早川の源流のクリークのホールでは、深いラフに助けられてランが無くOBを免れたり、そしてパートナーの「つき」まで頂いて優勝となりました。



さて、表彰式では記念すべき第十回大会ということ、で、多くの方々から特に賞品が寄せられ、数々の賞が授与されておおいに盛り上がりました。私が戴いたレプリカは、大石會長が特に校章を入れて下さった銀盃でした。一同に回して美酒をくみ交わしました。

し、印高会のますますの発展を祈る次第です。

### 第47回 江の島会

9月4日に開催される、

第47回江の島会が残暑きびしい9月4日、江の島の恵比寿屋さんで45名が集まって開催された。

総会は奥沢徹氏(59期)の司会で始まり、佐伯正剛會長(51期)が「江の島会も回を重ねて47回となり、今年も多数の同窓生が集まった。また永野清名誉會長(35期)は今年95歳になられ、益々ご壮健でお過しであることは大変喜ばしいことである。江の島会も永野名誉會長にあやかって、長寿の会としたい」と挨拶された。

続いて川村春雄同窓會長(46期)大石巖関東(53期)平山桂関西(43期)各同窓會長が挨拶された。

また、田中祐司母校校長から、夏の高校野球を中心とした母校の活動状況が、配布された印高新聞の切抜きで報告され、出席者一同母校の活躍のありさまを熱心に聞き入った。

続いて議事に入り、事業報告、会計報告が満場一致で承認された。総会に引続いて黒田秀幸氏(67期)の司会で懇親会が始まり、成岡英彦氏(67期)の音頭で校歌を斉唱し、西沢純三氏(43期)の発声で乾盃、宴に入った。

久しぶりに出席した人達、初めて出席した人達の近況報告、野方重人御夫妻(77期)の今後江の島会には必ず夫婦で出席するとの宣言等があり、なごやかな懇談の輪が、同期を中心に上下に広がって行った。

話はずきることがなかったが、ひとまず恵比寿屋さんに別れを告げ、例年恒例となっている橋の上の屋台「すさみ」に会場を移した。

ここでも話は弾んだが、相模湾に真赤な太陽が沈むころ、お互いの健康と来年の再会を約して散会となった。

なお、本席で恒例になっている佐伯會長の「一口辞典・恵比寿さまの巻」が配布され、また一つ知識が増えたことを付記する。

(68期 雨宮明生)



# 回想 随感 近況など

## 静岡の万葉を歩く

(その九)

51期 原崎 郁平

清水市小島町立花の櫻果場の傍の傾斜地に、次の歌を彫った万葉歌碑が立っている。

たちばなの みおりの里に

父をおきて

道の長道(ながて)は

行きかてぬかも

丈部足麻呂

(巻二〇—四三四一)

揮毫者は朝比奈宗源(円覚寺派管長)氏で、昭和五十一年十二月に建てられている。高さ約一六〇センチメートル、幅約二二〇センチメートルの石碑である。

歌の大意は「たちばなの みおりの里に父を置いて 長い道のりを行くにも 行き難いことである」である。歌碑の本文は読みくだし文で、その左に白文が書かれている。

この歌碑の立っているところへ行くにはJR東海道線興津駅で下車し、駅前から但沼ゆきバスに乗り、興津川の川沿いに国道五二号

歌碑建立にあたって立花在住の各位並びに当区出身の各地に御活躍の方々から多大な御支援をいただき、これが温故知新の社会教育の一助となり郷土愛のきずなとなれば幸いである。又歌碑の染筆を円覚寺派管長朝比奈宗源老師にお願い出来たことは師が日本を守る会の会長であり、広く世界平和の為に貢献されている方であるだけに錦上花を添える思いである。山紫水明のうるわしき里に精神文化を表徴する歌碑が建立され、古人の大和心を顕彰出来たことは意義深いものである。昭和五十一年二月十一日建国記念の日 万葉歌碑建立委員会

き 美し郷

〔青山於菟作詞〕

この校歌は戦時中の昭和十九年小島国民学校の校歌として作られたが、戦後の学制の改革により廃止された。昭和六十一年に旧校歌の除幕式に子ども会児童と参会者一同で唱和したことが碑裏の説明文に書いてある。

この小島町には一七〇四年に構築された城があり、江戸時代に松平丹後守信治、一万石の殿様が治めておった。今は「小島陣屋跡」として当時の石垣がわずかに残っている。

やっと成田を飛立った。チャンと直してくれただろうナ。海上で墜落したりしないだろうナ。生命保険はシッカリ付けているが大丈夫だろうナ? とところがスチュワーデスは平気な顔だ(当り前かな)。二時間後、どこ吹く風の大きな主翼の下には白絹の絨毯が拡がり遙かな雲海に続いている。その果てに幾つもの白い雲の峰が光り、ゆっくりと遠去かる。丁度蔵王連山の樹氷群の行列行進の様だ。不安は時とともに消えて七時半、一行はジャワ島のスカルノ、ハッタ空港に到着。インドネシアの首都ジャカルタで夜の遅い中国料理となった。

歌碑の傍らの説明文に次のように書かれている。「今から約千三百年前大和時代に大陸からの外敵に備え防人制度が設けられた。主として中部から関東にかけて心身に健全な若人が召されて九州各地に配備された。その若人達が遙か郷里に残した親や兄妹愛人などに想いをよせてありのままの人情を詠んだ歌の中から、兵部省の役人であった歌人大伴家持が九十余首を撰び防人の歌として万葉集に収めた。その中に当地から召されて旅立ったこの歌碑の作者丈部足麻呂が入っていた。この若人は已に母を亡くし郷里に慈父を残して九州の果てに遠征したのである。こまやかな親に対する愛情が人の胸を打つのである。

但沼の部落に舎人神社がある。舎人親王を祭ってあるが、舎人親王とは第四十代天武天皇の第三皇子で第四十七代淳仁天皇の父君である。舎人親王は天平年間、信濃から駿河に旅した途上、当地にて病のため亡くなったとのことである。但沼はその昔、海の物と山の物を交換した地であり、ここまでならば海の産物を腐らせることなく運ぶことが出来たから昔は大変賑わった町であったという。

翌朝、快晴(以下毎日快晴、気温は高いが爽やか) インドネシア独立記念塔はスラリと高く直立し(一四〇メートル)突端は炎の形になって空に消えている。広々とした公園のムルデカ広場周辺には大統領官邸や官庁や近代的銀行等が集中し首都のたたずまいだ。建物の間も道路も広々して青空を取込んだ街だ。記念塔の地下の歴史絵画にみるオランダの支配は三五〇年。我が日本占領時代は三年半でその一〇〇分の一に過ぎない。その割には教育もし、軍隊は日本軍式に良く訓練さ

一、古き歴史をたづねれば 万葉人が橋の みおりの里とうたいたる 遠き昔の防人(さきもり)を 偲ぶもゆかしわが郷よ

二、清き流れの山川に さばしる 鮎の いさぎよく 動めて倦まぬ 里人の 拓く山野に五穀(たなつもり) 実り豊け

## インドネシアの旅

—— キンタマーニ

55期 山本 孫一

油圧系統の故障で二時間遅れて

れた。日本軍撤退後、オランダに  
対する独立戦争を経てスカルノが  
統一国家を造った。

ジョグジャカルタへ（飛行機一  
時間）

ポロブドール寺院（丘の上の寺  
の意）

いわば日本の円墳の上がすべて  
石造りで覆われた小山のような  
寺。内には入れない。全山を廻っ  
ている石造りの回廊には、仏教物  
語の群像の美事なレリーフ（彫刻）  
の数々。また沢山の石積み、籠の  
内には一体宛石仏がおわします。

手に触れば祈れば願ひ事必ずかな  
う。このなだらかな石造りの丘は、  
仏の教えの暖かさ柔らかさ——円  
満を感じさせる。ユネスコがこの  
古蹟の修復に協力した。

プランバナン寺院  
ヒンズー教の寺でこられた石積  
みの急峻な尖塔の形である。内部  
に四神が祭られる。夕空に立つ尖  
塔のシルネットは厳しくも美しく  
見えた。ちょっとスペインのガウ  
ディ建築を想わせる。

パリのデンパサル（北の市場  
の意）空港へ（一時間）

バリ島の三日間（ジャワ島とは  
僅か二キロメートルだが、美し  
い衣裳の踊りと自然の島）

ケチャックダンス

夜、野天で数十人の裸の輪にな  
った男達が、チャッチャッと合唱  
し、輪の中で金ビカに飾った男女  
が舞踊劇を踊る。

パロンダンス（ヒンドゥ教）  
昼、野外で、聖獣バロンと魔女  
ランダ、即ち善と悪とが際限なく  
戦って勝負がつかないという舞踊  
劇。

レゴンダンス  
天上の神の踊り。少女達が金ビ  
カの民族衣裳で可愛いく踊る。

キンタマーニ高原（一度聞いた  
ら誰も忘れない）  
阿蘇山をひとまわり小型にした  
ような高原で、芦の湖のような火  
口原湖がある。同行の女性たちは  
「何とか高原」と表現したが、付  
近では「チンチン（金細工）」も作  
っている由。マア女性のもの名  
でなくて良かった。実際は日本語  
のイメージからは遠く、緑成す山  
容は一望信州の霧ヶ峰の如くゆる  
やかにうねり、また古代の神域趾  
の聖地もあるとか。海拔一四〇〇  
メートルの涼しい高原である。

ヒルトンホテル（他にも五ツ星  
の豪華ホテルが多い）  
石彫刻のある広大なラウンジが  
あり、また広大な中庭は原色の花  
が咲き乱れ、ひょうたん型のプー  
ルサイドのバラソルの下では、白

人女性が裸でまどろむ。小生等は  
泳ぐ。水温甚だ暖か。

食卓  
インドネシア料理は大体甘いも  
のが多いが、少しは辛いものもあ  
る。中国料理その他各国の料理も  
ある。街の屋台店も安くて結構味  
も良い由なるも、飲み水や氷など  
要注意。ビールとミネラルウォー  
ター、火を通した食物なら安心だ。

その他  
宗教は全国民が持たねばならな  
い。歴史上は別だが、現在はイス  
ラムが八七％、キリスト教九％、  
ヒンドゥ教二％、仏教その他が二  
％の由。宗教のせいもか人心が穏や  
かなようだが、一方ではよろずマ  
ンマンデーである。

肌色は日本人の黒い人程度。余  
り太った人を見かけない。食物か  
遺伝か、みんな中肉中背である。

気候は乾期・雨期と二分し、四  
季は無い。雨期でもシャワー程度  
のもの。気温は年中三〇度以上だ  
が湿度は低く、爽かて暖かく申し  
分ない。ジメジメ空気の日本とは  
大違い。

年中熱帯の花ブーゲンビリヤ、  
ハイビスカスなど赤、ピンク、黄、  
紫、白と原色の花が咲き、バナナ、  
パイナップル、マンゴー、椰子等  
果物も豊富。

椰子の木は空に開く鳥の羽根、  
ビンロー樹はマンモスの毛づくじ  
やらの根が垂れ、マングローブは  
海中にタコの足のような根を下し  
てえびの寝ぐらを作る。島崎藤村  
のあの流れる椰子の実は、この辺  
から黒潮に乗ったのであろう。我  
が民族のふるさとの一つでもあろ  
うか。

田んぼもある。稲は三度採れ、  
米価はキログラム三十円。値段で  
はとてもケンカにならない。

一円が二十〜二十五ルピアなの  
で円の偉力は大了したもの。給料は  
大学出で一万円位とか。

観光立国で並々ならぬ力を入れ  
よう。日本人客が七、八〇％を占  
めるのではなからうか。お土産は  
木彫、ロウケツ染、金銀細工、宝  
石等。

走る車は殆んど日本車（九〇  
％）、バスはベンツ。約三％を占め  
る華人が経済の七〇％を握る。農  
業が大半で工業は少く、今回は観  
光とはいえ工場の煙突は一本も見  
なかつた。従って失業率は高い。  
アイスクリーム工場で六人募集し  
たら二十人応募したという。

以上、インドネシア——一千万  
千の島々から成り、大部分は無人  
島。人口一億八千万人、内一億一  
千万人がジャワ島に集まり、島々

の過密過疎は見方によれば日本以  
上かも知れない——のホンの一部  
のご紹介です。何しろ大きな島が  
離れ離れに八ツもあり、それぞれ  
に文化が異なる国です。

敢えて一言で言えは「南海の素  
朴な東洋の島々」の国でしようか。  
アメリカになったハワイとは違い  
ます。天国に最も近い島、神々の  
住む島、バリの荘麗で神秘的な踊  
りは、約半数の女性が五歳から十  
歳位迄、ヒンドゥのたしなみとし  
て習うものだそうである。

キンタマーニの意味は、日本に  
在るインドネシア政府観光局に訊  
いても遂に判らなかつた。意味は  
ともあれ我々日本人にとつて、何  
となく大らかでのんびりしたイン  
ドネシアの、風景、人々、土地柄  
を彷彿とさせる響きではないかと  
勝手に思っている次第である。

平成の大東亜共栄圏  
（その一）

60期 黒田武之助

静岡中学の時代は、太平洋戦争  
と共にあった。私たちの青春は戦  
争とともに歩いた毎日であったと  
思う。

戦争が終り経済の混乱の中で、  
大学・就職と休むいとまもない生  
活が続いた。そして三井系のメー

カーに勤務しているとき、マレーシアへの海外出張となった。昭和三十三年のことであった。生れてはじめて飛行機に乗り香港経由でクアラルンプールに到着した。マレー半島といえば「マレーの虎」と言われた山下將軍と銀輪部隊のニュース映画が印象に残っている。マレーシアはもと英国の植民地で昭和三十年代の日本と比較したらとても美しい街並みと椰子の木のある海岸が多くの夢をさそってくれたように思う。

このとき、マレーシア・クアラルンプールからシンガポールへ飛んで、製糖工場の建設のマスタープラン作成に連日遅くまで従事した。

数年後の昭和四十年代、こんどはタイ国の製糖工場買収でバンコクに飛び、結局二年をかけて買収して工場の改造工事をして現地法人の設立、輸出指向の製糖会社としてスタートさせた。

ここで一度日本勤務となり、技術部門からマーケティング部門に移り更に販売部門と営業のプロとして毎日汗を流したことも今はなつかしい思い出となっている。

昭和四十年代後半、タイ国現法の増設を期に、M/DIRECTORとしてバンコク勤務がはじま

った。私のアセアン諸国との接点が大きくなったのは此の時からである。約五年間のタイ国(バンコク)の生活は、日本で生れたものにとつて、すべての考え方や価値感が多様であることを知らされた毎日であった。この経験がその後の私の生活基盤やビジネスの展開を大きく変化させる結果となった。

バンコクの生活には四季がないと思うが、タイの人達は「タイ国にも四季はある」と言う。但し日本のように春夏秋冬という区切りのあるものではない。乾期と雨期があり確かに気温の変化はある。乾期の太陽は毎日毎日暑い日が続く。朝から輝く太陽が顔を出し気温は四十度C近くになる。直射日光に当たっていたら三十分も立ってられない状態になる。果物が大きく実り、年中おいしい新鮮な農産物が出るのは、まさに太陽の恵みそのものだと思う。少年倶楽部の「冒険ダン吉」になったような気分になることしばしばである。

バンコク市内の中心地にルンビニ公園という大きな美しい公園がある。早朝のジョギングから夕方から夜にかけての家族連れなど市民の憩いの場でもある。この公園

に戦争中日本軍が駐留していたと聞いている。現在は、この中心地の周辺は大きなビルが林立してビジネス街となっている。

現在日系企業はタイ国に約三千社あるともいわれている。バンコク日本人商工会議所のメンバー企業は約一千社を越えて海外の日本の商工会議所規模としてトップの位置にあると聞いている。またタイ国には日本人約三万人住んでいる。まさにアジア地域の中心といえるのではないか。タイ国の近代化・工業化・輸出振興に大きく貢献していることも事実である。

現在も私は、年数回タイ国を訪れる機会があり、益々第二の母国となっている。今ビジネスとして進めているのは、国際協力事業団のプロジェクト「タイ王国サポート・インダストリー育成振興」の調査を終り年内にファイナルレポートのドラフトをタイ国政府に提出する準備をしている。

このプロジェクトは、特に自動車部品と家電・エレクトロニクス関連部品が中心であり、日本の技術の集大成の部分であり毎日興味深く仕事ができることをラッキーだと思っている。

次回は、フィリピンをとりあげて見ようと思う。

## 鮎釣り

(友釣りのすすめ)

61期 清水 照彦

釣り好きの素質には、遺伝、染身体が与かるものなのかどうかよく分らないが、私の父(旧姓平野義久。静中21回卒業)は釣りが好きで私が幼い頃、一時ではあったが私を自転車の後に乗せて原野谷川(袋井市、大田川支流)に鮎のドブ釣りに連れて行ったり、用宗の大崩海岸に黒鯛の磯釣りに供をさせられたことを思い出し、そういった幼い頃の環境が私を釣り好きにしたのかも知れない。

又女房の父(増井東平。静中41回卒業、満寿一酒造)がこれ又鮎の友釣りが好きで、私の三共時代宮城県の名取川で手ほどきを受け、静岡の薬科川、興津川、狩野川、大見川にお供をしたものである。

そんなこんなで鮎釣りの年期はあるのがここで口上を述べるほど、上手ではない。ただ無性に鮎の友釣りが好きでやめられないといったところである。又よくしたもので私の家の向いの大将がめっぽう鮎の友釣りが好きで、夏の間、週三日は栃木県的那珂川へ、遠くは飛騨の益田川へと鮎釣りとなれば、何はさておき話はすぐ纏まり

釣行に一緒に出かけてしまおう。朝四時に宿を出て、十時頃迄川で鮎を釣って、宿に帰り朝風呂に入り、風呂上りにビールを一杯、朝飯を食べて昼寝、又午後二時頃川に出て日が落ちる迄釣って一日が終る。鮎のこと以外何も考えない。誠に夕焼けの河鹿の鳴く里、ここは天国、こんな健康によい趣味はないと自己満足。

鮎はというよりも鮎の友釣りは女性とのお付合いに似たところがある。鮎の鮎を鼻環につけて、目的の場所に送り出すのであるが、その時無理矢理思う様に泳がせようとすると、すねて全く動かなくなったり、反対方向に泳ぎ出す始末、したがって暫くは鮎の思うように泳がせ、耐えてやらねばならない場合が多い。或る人は『それ行け』と大声で鮎を送り出してやる人、鮎の頭をそっと無で、『いい友達連れて来い』と言ってやる人、人それぞれ千差万別である。送り出された鮎も性格が色々あって、真直ぐ沖まで泳いで行くもの、暫くは近まわりについて思い出したように動き出すものと夫々好みの苦(珪藻)をめぐけて泳ぎはじめるのである。最初は養殖の鮎であるから鮎の取扱売所の水槽の中で飼われ「おなか」がすい

ているためか、又集団生活に慣ら  
 されているためか、野鮎の追いき  
 を誘わない。井伏鱒二の「溪流」  
 という詩はこの時の釣り師の心境  
 をうたってくれる。

今日はさっぱり釣れない。

おとりの鮎を

一びき曳きこらし

一びきは逃がした。

でも釣りたい。

糸のさきに

石ころをむすびつけ

こうして釣る真似をする。

ごごごつ ごろごろ

まさに手応えがある。

カワセミのやつ

羨ましそうに見ているぞ。

やっと沖に出た鮎鮎が目的の苔  
 の処に行き苔を食み始めると縄張  
 りを持った鮎が鮎鮎を追い払おう  
 として鮎鮎に仕掛けられた掛バリ  
 に野鮎がかかった瞬間から取り返  
 む迄はそれはドキドキ、あの女性  
 との逢う瀬とはチョット違った胸  
 の高鳴り、野鮎を「たも」に入れ  
 た時ホッとす。毎年川に入って  
 一匹目を釣りあげた新鮮さは忘れ  
 られない。トロ・平瀬・荒瀬あ

和歌山県日置川にて



そこで釣りあげたが  
 水が澄んで見釣りが  
 出来るので鮎の行動  
 を見ていると縄張り  
 を持った鮎の処に鮎  
 鮎を入れても全くと  
 言ってよい程、野鮎  
 は鮎鮎を見向きもし  
 ないが、其処へ集団  
 の鮎が回遊して来る  
 と縄張りをもった鮎  
 が逆上するのか、掛

かる事が見受けられた。

鮎も気候、生い立ち、環境で年

々歳々、性格も変つて来て、昔の

様な元気な鮎が住む河川が少なく

なつて来ている。特に川の上流に

ゴルフ場や開発された別荘、人家

から出て来る雑排水はすつかり鮎

の元気を奪い、又心ない人が川に

ビールの空罐やらビニール袋を捨

て、川はゴミ捨て場と化し、年々

汚され続け、その水を吾々都会人

は浄化されるとはいえ水道水とし

て使っているとも知らないのが嘆

かわしい。

鮎を上手に釣るには一つに鮎の

居る場所を時間をかけて探すこ

と、入った処に直ぐ竿を出さない。

二つ目は鮎鮎次第であるから川に

入つて最初の鮎鮎の操作は全神経

を鮎鮎に集中、用心して泳がせ、

早く野の鮎を釣ることである。三  
 つ目は仕掛が大切であり、仕掛を  
 あれこれ考えて作るのは冬の間の  
 楽しみである。

鮎の友釣りの歴史は私の生れた  
 年から丁度百年前の一八二八年頃  
 狩野川で考案(華山代官役所の古  
 文書)され、ロコミで富士川、興  
 津川と東から西へ伝播していった  
 そうである。この友釣りを考案し  
 た人が静岡県の伊豆の人であると  
 いうことは誇らしい。最近の仕掛

け作りはなかなか繊細である。最

近の化学製品特にフラインケミカ

ルの進歩は目を見張るものがある

が、それに伴つてここ数年来次か

ら次へと新製品が考案されて昔と

は様変わりし、又釣り方もいろいろ

と変つて来ている。しかし、親父

が生きていたならば「馬鹿こけ(遠

州弁)、友釣りの基本は変つてい

ない」と言われそうである。

中秋の

名月をながめて

74期 藤原 經史

今年の夏は大変な猛暑であつ  
 た。各地の最高気温が日ごと記録  
 を更新したためずらしい夏であつ  
 た。

世の中、いいこともあればその  
 うらもある。日本経済が低迷して

いる時に、猛暑のおかげで夏物が  
 飛ぶように売れ、反対に水不足で  
 なやんだ地方もあった。世の中の  
 常として、ウラもあればオモテも  
 ある。ウラ側ばかりでもだめだし  
 オモテ側だけでも味もそっけもな  
 い。よく言い古された言葉である  
 が、「清濁あわせもつこと」が必要  
 と。世の中、いい人だけでもよくな  
 らないし、また悪い人だけでは勿  
 論よくならない。

パブルの崩壊も一段落し、世の  
 中落ち着きを取りもどした様子で  
 ある。平均年収の三倍ぐらいの家  
 族4~5人が住める家をもてる様  
 でないといかんなあというのが、  
 小生の自論である。日本の政治も  
 ぜひ大きく変革していただきたい  
 く、政治家らしい政治家が出てく  
 るのを願うのも小生一人だけであ  
 ろうか。

最近、仕事から海外出張が多く、

自分として一番つらい事である。

言葉は勿論しゃべることも出来ない

いし、聞くことも出来ない。夢に

も海外の仕事をするなんて思つて

もいなかた。最近、言葉は通じ

なくても、相手の眼をじっと見て

いるとその人の心が分かるように

なつて、「眼は口ほどに物を言う」

ということわざを実感する今日こ

の頃である。

## 関東学生の会 主催

### 第二回同窓会・講演会

去る十一月十二日(土)、渋谷新大京ビル五階にて、学生の会による同窓会及び講演会を行いました。

まず当学生の会とは、昨年一〇五期の丹沢卓久さんが設立したばかりの、全く新しい、静高OBの関東大学生によって構成しております。

今年で二年目ということで、活動内容も基礎づくりの段階です。今回の同窓会に先立って一〇七期から一〇九期の三期にわたり幹事会を組織し、この幹事会を中心に、今回の企画・運営を行いました。今回の同窓会では、参加して下さった皆様に学生の会役員の承認をいただきました。

さて、当日の講演会ですが、講師は、八十七期の薬科名雄様(メデイカル・エンバイロメント社長)と八十九期の鳥巢修様(鳥巢修税理士事務所)の御二方です。参加は、少数の小規模な講演会となりましたが、内容は学生時代の過ごし方、就職問題に関して、また自

営業のすすめ等、私達大学生にとって大変実のあるお話でした。大學生の年代は、とても吸収力のある時期と思います。OB会を活用し、諸先輩方のご意見を聞くことも大切な事だと思えます。

その後の同窓会では、レクリエーションとして、ビンゴゲームなどを行い、一時間半余、学生同士交流を深めたり、情報を交換したりと有意義な時間を過ごしました。参加者の感想で、とても良い刺激になったとの声もあり、今後とも

学生の会、OB会の活動を積極的に進めていきたいと思えます。今後は、同窓会としての活動だけにとらわれず、現役静高生への大学案内・進学アドバイス等も計画中です。皆様のご協力をお願い致します。

今回、当日の司会をお願いした一〇八期の鷲巣祐介君、伊藤孝太君、準備の段階から大変ご尽力下さった学生の会幹事会の役員の皆様、講演して下さった薬科名雄様と鳥巢修様、その他ご参加下さった学生の皆様に厚くお礼申し上げます。

関東学生の会 会長

一〇八期 相坂 摂治

## 静岡だより

「やらまいか精神」の真骨頂

### アクトシティがオープン

静岡県の新しい顔ともいえるべき「浜松アクトシティ」が十月七日に完成、盛大に落成式が行なわれ、八日から一般に公開されました。

規模が大きすぎて全容がつかみにくいと言われるアクトシティを、シミュレーションも交えて、訪問記の形で分かりやすくご紹介いた

します。  
新幹線浜松駅に降り立つと、いきなり目線が引つ張り上げられます。アクトタワーです。地上45階建て、高さ約二二三メートルは、中部圏では最高、全国でも七番目の威容です。

アクトシティは、敷地面積が約4万3千㎡、延べ床面積が23万㎡という広大な施設なので、四つのエリアの概略をつかんでおきましょう。



【浜松駅前バスターミナルに隣接したエリア】一流のコンサートや舞台芸術が可能な大・中ホールと、国際水準のコンベンション機能を備えたコンGRESセンターがあります。

【中央のエリア】二・三メートルのアクトタワーです。ホテル、オフィスや専門店街アクトプラザが入っています。

【東側のエリア】展示・イベントホールがあります。

【未完成エリア】来年の四月にオープン予定で、楽器博物館や研修交流センターが入ります。

アクトシティには、施設全体の文化的・芸術的な雰囲気高めるため、「音楽」「文化」「交流」などをテーマとしたアートワーク（彫刻や壁画など）が配置されています。現在は26カ所ですが、将来は56カ所に設置される計画で、ショパンの像がある中ホール屋上は「ショパンの丘」と呼ばれています。

まずは45階からの眺望をーとアクトタワー6階の直通のシースル・エレベーター切符売り場へ。公開直後なのですごい混みよう。何とデイズニerland並みに「ただ今は〇〇分待ち」の表示が出る始末。ちなみに、オープン初日の

ピーク時には最高2時間30分待ちになったとか。何しろ当日は、見学者が10万人を超えたそうです。45階の展望回廊までは、わずか1分。高さ一八五メートルからのパノラマは正に絶景。浜名湖はもとより南アルプスまで見渡せます。

ざっと見回ったアクトタワーのフロア構成は次のようになっていきます。

1〜5階↓ホテルロビーとレストラン、ショッピングゾーンの「アクトプラザ」

6〜8階↓ショールームとカルチャーゾーン

9〜27階↓オフィス

29〜44階↓ホテル

45階↓展望回廊

屋上↓ヘリポート（緊急用）

ホテル部門は、「ホテルオークラ・アクトシティ浜松」が、おもてなしのマエストロをテーマに開業し、4万2千㎡の床面積を占めています。

見学にいらした時に、45階の展望回廊が混んでいる場合は、30階にあるホテルオークラのスカイラウンジをお薦めします。

ここからの眺望もなかなかのもので、何よりも座ってゆっくりと楽しめます。食べ物もとても

おいしく、芝エビのカレーとサーモンのサンドイッチを食べてみました。これが美味。さすがホテルオークラといったところ。

さて、次は大・中のホールへ。大ホールは、日本初の本格4面舞台（主・上手・下手・後の4面）を備え、横70m×奥行43mで、本格的なオペラやバレエの上演も可能です。座席数二千三百以上で、舞台と同じ規模のリハーサル室まで完備しています。

中ホールの目玉は、フランス・コワラン社製のパイプオルガン。自動演奏装置も備わって、およそ四千五百本のパイプからは、64種類の音色が奏でられます。

客席は千席ちょっとですが、音響効果を考えて、椅子の一つ一つにもこだわり、ナラやヒノキ材を使っています。

続いてコンGRESセンターへ。大・中・小合わせて13の会議室があり、六カ国語の同時通訳ブースや外国要人用の貴賓室、プレスルームも用意されています。

シティの東端にある展示イベントホールは、縦約100m×幅約35mで3千5百㎡、最大五千三百席が確保でき、大規模な展示会やイベントに対応できます。

ここいらで見学は休憩として、この壮大なプロジェクトの開発についてご紹介しましょう。記事の本筋はむしろこちらです。

ここ数年の浜松駅周辺は、大規模な開発ラッシュが続いていました。というのは、JRの鉄道高架で生まれたスペースを、民間の優れたノウハウや資金を活用して、官民一体の開発を行なうとの共通のポリシーがあったからです。

プレスタワー、フォルテ、名鉄ホテルなどなど。かつては浜松駅から西武浜松店へ続くごたごたした（失礼！）一角が、あつと言間に高層ビルの建ち並ぶ洗練されたアーバン・スクエアに生まれ変わって、今回のアクトシティ完成により、遠州の「やらまいか精神」は大きく結実しました。

アクトシティの建設費用は、浜松市施設関連で約六六〇億円、民間側が約一十億円で、民間は第一生命、三菱地所グループが中心となり推進しました。建設は「アクトシティ浜松建設共同企業体」が共同受注、共同施行する手法が取られ、共同体に参加したのは、鹿島建設、清水建設、竹中工務店、須山建設、中村建設、中村組、林工組、鈴木組の八社です。

「やらまいか精神」は、開発のコンセプトのみならず、実際の施工にも発露されました。コンペに当選したらすぐ着工という素早さの中、平成三年八月にスタート。三年で完成をーという無理難題とも言わば要求に対し、工事従事者は常時三千人、延べ人員百万人という態勢で、敷地面積が約4万3千㎡、延べ床面積が23万㎡という大プロジェクトを、三年二カ月という短期間で完成させました。

さて、振り返ってみると静岡の「やらざあ精神」は、どこへ行っってしまったのでしょうか？

何も開発のみが積極的精神の表れだとは申しませんが、静岡市の旧態依然さははがゆい限りです。

ハード（器）面での変化を、ここ何年間か振り返って見ると、県立美術館ロダン館（既報）や静岡市役所、女性会館アイセル21（既報）、最近のアゼリアや中央郵便局十音楽館など、公単独の施設が日につきます。

民間で特筆すべきは、企業メセナに力を入れている静岡銀銀服町支店ビルの「アゴラ静岡」や「メディアシティ」程度で、「静岡だより」で紹介したくとも、地元の民間活力例を探し出すのは骨が折れます。

いくつもの大型プロジェクトは

いくつもの大型プロジェクトは

いくつもの大型プロジェクトは

抱えてはいるのですが、その進捗状況は、どうも芳しくないというのが実情なのです。

なぜ「やらざあ精神」は「やらまいか精神」にこれほど遅れをとってしまったのでしょうか？ アクトシティを案内してくれた浜北出身の友人は、アクトシティの開発について、その苦勞の様や完成時の喜びを、まるでわがことのように熱っぽく語ってくれました。

そうした、直接には関係のない市民までが抱く地元に対する誇りと愛情を、身近にいる静岡市民の冷静さと比べてみた時に、先の問いに対する答えのヒントが見つかるかも知れません。

なお、アクトシティの完成に合わせて、静岡新聞社が『アクトシティ物語』を発刊しました。遠州男たちの熱い血潮を読み取っていただきたいと思います。

定価は千五百円で、八重洲ブックセンターの四階、「静岡新聞社出版物」のコーナーで入手できます。  
(85期 吉水 廣)  
写真は「ショパンの丘」からアクトタワーを望む。

(写真提供・静岡新聞社)

### 由比町に誕生 東海道広重美術館

静岡からJRで東へ20分、由比町です。人口は一万一千、当今、過疎傾向にあります。こうした中平成元年が丁度、町制施行百周年でしたが、この年、荒廃していた旧宿場(旧東海道16番目の宿場町が由井)の本陣屋敷を町が買い、以来整備を進めて来ました。

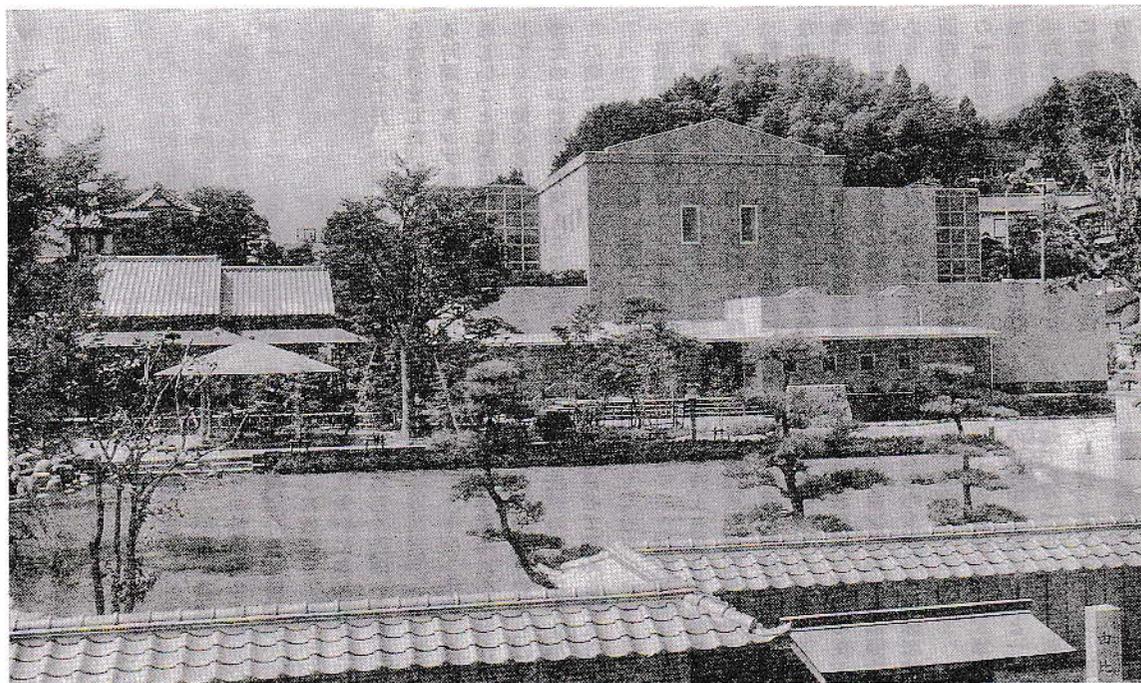
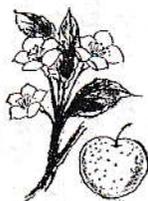
まず屋敷全体を公園とし、明治天皇ご小憩の別館を記念館「御幸亭」と名づけて建て直し、さらに町全体の活性化の願いをこめて、メイン施設として「東海道広重美術館」を建設し、今年9月末にオープンしました。

東海道の宿場の本陣は一三〇軒ほどあったのですが、敷地・建物が今日に遺ったのは草津・土山・二川などです。残念ながら由比は敷地は完全でしたが、建物はすべて腐朽していました。

町は早くから購入意欲がありましたが、永く東京住いの学者地主と接点がなく今日に至りました。その頃は跡地に資料館を考えていましたが、今回の購入成功から町の活性化を考え、美術館指向になりました。

東海道の宿場の本陣跡に建てる美術館の内容は何がよいか。資金のこともある。そこで東海道の風景画をメインテーマにして歌川広重の浮世絵版画を展示する美術館が最適だろうということで「東海道広重美術館」が誕生しました。この間、広重の版画は八百余点を蒐集しました。すべて本物です。郷里静岡へおいでの節、足を伸ばしての御来館をおすすめいたします。場所は由比と蒲原駅の間いづれからも約2キロ弱、タクシー5分、旧東海道沿いで、すぐ分ります。近くに駐車場もあります。開館は午前9時から午後5時(入館4時半まで)、月曜と休日の翌日が休館日です。

(60期 手島英真)  
右手の洋館が東海道広重美術館、左手が由比本陣記念館「御幸亭」



# 「こゑ」

この欄は「もう一つの総会」です。  
気軽に筆を執り、送ってください。

44 佐藤 文三  
いつも御世話になります。私も  
気持ちには元気で居りますが、何分  
にも年をとりましてその年並みの  
健康でいます。今は、下手な俳句  
をやつて頭の働きの生かしていま  
す。田舎は藤枝ですが大分前と違  
つたようですね。

46 丸杉孝之助  
甲子園の静岡予選で、久方ぶり  
に赤い校旗と「岳南健児」の校歌  
に接し、若い血が奥底から沸き出  
るのを覚えました。

名簿を見ても、四六回のメンバ  
ーも次第に影が薄くなってしまし  
た。なるべく昔の話が多く伝えて  
下さるよう、期待しています。

50 峰田 静夫  
昨年六月に左肺下部三分の一を  
切除する手術をしました。その後順  
調に回復して、毎朝一時間半の  
ウォーキング、テニスの練習、  
スポーツクラブでの訓練等も出来  
るようになり、年四、五回病院で  
チェックを受けるだけになりました。

51 伊藤 濱吉  
今春は隔年発行の銃砲年鑑の投

稿を血眼になって書きました。間  
違っていると言われたくないの  
で、後世に残る資料にしたいので  
甚だ疲れます。物を書くのは自分  
の勉強だといつも思います。静岡  
県立図書館に備えつけられている  
のを見て嬉しく思いました。

51 田中 賢一  
私の同級で陸士に入った者は四  
人おります。奥山史郎、海野銜吾  
は戦死、磯塚駿吉は戦後歿、私一  
人老醜を晒しています。「義勇奉  
公四つの文字」戦死したお二人の  
こと追而投稿し度いと思ひます。

52 苦米地一樓  
私も事務局よりの企画には賛成  
です。少しでも後輩諸君の窓口が  
拡がることを希望します。私は去  
る四月以来右大腿部筋断裂の為入  
院中です。頑張つて一日も早く退  
院出来る様祈つております。同窓  
各位に呉々も宜敷く。

52 新美 弘  
高校野球、今年こそはと期待し  
ましたが、残念な結果となりました。  
選手諸君のご健闘を讃え、来  
年のご活躍を祈ります。

55 日比 光明

現役時代からぼつぼつやってい  
た趣味の絵に打ち込んでいます。  
「——絵程いいものはない。一度  
試してごらん。私を嘲笑する前に。  
しくじつた処で大した損害でもな  
いだらう。やつてご覧、死なな  
うちに。」というチャーチルの言  
葉を同窓諸兄姉にお伝えします。

56 伊東 卓爾  
健康も万全とはいえませんが、  
元気です。地域の住民運動のお手  
伝いをして、生き甲斐を感じてい  
ます。消費税はやめて。コメの自  
由化は困る。自衛隊はなくて。  
第二次大戦の反省をいまあらため  
てという高年齢の方が訴えていま  
す。

57 久保田誠三  
平成五年七月から財団法人自転  
車駐車場整備センターの理事長を  
しております。自転車とバイクの  
駐車場を今までに約三十三万台分  
設置し、公共団体からの受託を合  
せて五十万台に近い施設の管理を  
行っています。事務所は芽場町、  
電話は3667-4621です。  
序の折りにはお立寄り。

58 原木 陸雄  
ご教示下さい。  
校旗の焼失は、昭和二十年六月  
の戦災ではなくて、昭和二十一年  
の火災ではないでしょうか。

58 世古 真臣  
伊豆には時々出かけますが、静  
岡迄は仲々機会がなく残念です。  
卒業して既に50年になります。  
クラスメートにも会う機会も少く  
どうしているかと考えています。

59 青山 勇  
去る七月、退職してフリーの身  
となりました。好きなことをやれ  
る時間がたっぷりあるのはすば  
らしいことだと思います。それに  
しても、働くという事は何であ  
ったのかと改めて考えさせられる  
この頃です。

60 野沢 栄司  
平成五年、精神科クリニック開  
業。元気で働いております。

60 新聞 昌輝  
幹事の皆様には何時もお世話に  
なりご厚礼申し上げます。同窓会  
は、同期生は元より、思わぬ先輩  
にお目に掛かれる貴重な機会でも  
あり、その点、年をとるにつれ、  
面白くなる感じがします。同窓会  
の一層のご発展を祈っています。

60 原 善三郎  
六十代の半ばを過ぎて、しきりに  
昔机を並べて学び、遊び、さば  
り、そして語り合ったなつかしい

▼「百年史」によると、21年2月  
3日、住友金属内の仮校舎焼失の  
際に校旗も焼けた由。(事務局)

60 齊木 学  
六年の六月の株主総会で相談役  
になりました。今後は時間が大幅  
にとれるようになりましたので同  
窓会その他に大いに参加させて頂  
きます。よろしく御願ひ申し上げ  
ます。

62 小宮 鳥夫  
6月末で41年勤めた小松製作所  
を退職しました。悠々自適とはま  
だ言えず、茨城の方の中小企業  
のお手伝いをさせて頂くことにな  
りました。

66 川合 勉  
昨年日本モトローラを退職し、  
関係会社で技術開発部長をやつて  
ます。去る六月六日は久々の帰省  
で、同窓生と会ってスッカリ若返  
りました。現在はアマ無線のトン  
ツーよりパソコンのMACに夢中  
ですが、どちらもオタク趣味です  
ネ。

66 内田 幸雄  
今年の夏の甲子園は、あと一歩  
という処で残念でした。又、新し  
い気持ちで頑張つて下さい。又、近  
鉄の赤堀投手は本校出身と最近知

りました。近鉄は野茂ばかりではない。活躍を期待しています。

77 朝倉 勇

七冊めの詩集「鳥の歌——ジュルジュ・ブラックへの手紙」を思潮社より出版しました。鳥をテーマとする詩、約二十篇をまとめたものです。今回は装丁も自分のスケッチを用いて、自分で試みてみました。

68 鈴木 俊彦

フリーライターとして出発後、二年めに入りました。農業・農村問題とスポーツ（野球・相撲）の取材・執筆に取り組んでおります。

70 牧野 甫

昨年は腸閉塞で一ヶ月、二度の前立腺肥大の手術で一ヶ月と二ヶ月も会社を休んでしまいました。来年は定年、最後の一年を健康に注意してがんばりたいと思っております。なお、住所変更になりました。

70 若林 久二

いすゞ自動車から貝印へと30余年、企業で物づくりに専念してまいりましたが、今春より今度からは人づくりに専念しております。東京から北海道へと自然とのふれあいも満喫しながらまだまだ頑張っております。（札幌市立高等専門学校教授）

73 斉藤 武

昨年六月末に富士重工工業部取締役を退任し七月に新大阪スバル自動車部社長に就任して現在大阪へ単身赴任中です。大阪へお出掛けの際は是非お立ち寄り下さい。では又、

74 角谷 治子

TEL(〇六)九〇八一三三三三  
会報いつも有難うございます。  
関東同窓会の黒ハンペンに魅力を感じながら立派なおじ様ばかりの集まりに手もちぶさたでいることになる不安を思うと出席を躊躇します。もともと同期の方とは時々集まって情報交換を楽しんでいます。一期先輩の文化庁長官の遠山さんはじめ女性の活躍も楽しみです。

76 池田 哲郎

東京にいてまだ総会に出席した事がなく誠に申し訳ありません。私の仕事は結構時間に追われる為皆様方に不義理をしております。あと三年ぐらいいましたら一段落致します。皆様によろしく。

77 大岩 蓮

今年の県予選は残念でした。何といっても甲子園の出場校は、静岡代表は『静岡』でないと夏が来た感じがしません。そろそろ、春夏連続出場するよ

うな強力チームの出現を期待しています。

84 成田恵理子

毎回、楽しく会報を拜見させていただいております。若い時は、高校時代を懐しく想い起こすことなどありませんでしたが、娘達はその年頃になり、ほのぼのとした思いにかられます。

「会報」編集子から

○毎号、バラエティに富んだ原稿を寄せてくださる方々に、心から感謝申しあげます。  
同窓会員の絆をより強くとの願いをこめて、さらにより充実した誌面になるよう、一層のご協力をお願いいたします。  
○原稿尊重を建て前としておりますが、加筆や訂正をさせていただきます場合もあります。その点ご了承下さい。

○提供の写真について、返却の必要があるかどうか書き添えていただければ幸いです。  
○原稿依頼や掲載広告について、候補と思われる方を事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。(U)

各期幹事一覧

幹事が変更の場合は事務局までお知らせください。特に幹事未定の期(83・88・91・98・99・101)は至急選出してご連絡を!

42: 井出多米夫・岩波信平

43: 今井志郎・西沢純三

44: 高橋真一

45: 鈴木弥門・田附敏三

46: 西 静男・山本幹夫

47: 杉山栄一

48: 原崎進一

49: 菅沼 栄・杉本久敬

50: 梶原忠治

51: 佐伯正剛

52: 服部雅雄・広川 聡

53: 奥野 孝・山菅章雄・月見里得知郎

54: 庵原梯次

55: 相川富士雄・法月重雄

56: 清水逸郎・鈴木源一

57: 岩井平一郎・影島利邦

58: 田熊博邦・藤田 登

59: 青木静男・奥沢 徹

60: 上杉重吉・堤 崇・山本雅之助

61: 大石次男

62: 63: 木下景一

64: 65: 野沢正憲・渡辺素夫

66: 田中俊男

67: 朝比奈正三・梶原由三・成岡英彦

68: 高橋俊見・荒谷じつ子・大川庄治・雨宮明生

69: 小林泰三

70: 味岡 宏・川端正良・関哲男・中馬敏雄・宮本達治

71: 児玉文男・後藤弘枝・海野幸雄・篠原 直

72: 桜井亮介・深田 均

73: 杉山 光・中西英一

74: 佐藤鐘司・藤原経史

75: 後藤正義

76: 酒井孝太郎・鈴木 浩

77: 加藤重信・野方重人・三浦位通・清水雅尚

78: 鈴木藤男

79: 上田尚亮

80: 野崎幸彦・諸星勝保

81: 鈴木素明・萩原英昭

82: 杉本三郎・堀内淳司

84: 榎原明生・田辺 哲

85: 池田幸司・増井喜一郎

86: 成岡和美

87: 橋村芳一・平岩正史・薬科名雄・沢井良輔

89: 鳥巢 修

90: 荒井千明・小林一郎

92: 清水 篤

93: 岡村幸彦・望月 朗

94: 松野敦子 95: 新村昌弘

96: 奥田規之・細沢 優

97: 藤森 尚 100: 船橋 智

102: 田代卓靖

平成六年度会費拠出者

(順不同・敬称略)

平成6年4月1日～6年10月31日

- 51 蘆田正之、伊藤濱吉、佐伯正剛、鈴木孝雄、田中賢一、林盛次、原崎郁平、森 弘
- 52 田中貞司、服部雅雄、広川聡石野浩一、大草知久、岩本良雄、茂呂茂樹、市川雄八郎、小川善次郎、直原澄衛、綾部立一、新美弘、西田豊馬、苦米地一樓
- 53 大石巖、奥野孝、小野一夫(3)園田芳男、徳永悠久、橋本久仁寿、月見里得知郎、山菅章雄、桜井昌也、宗像醇、森下洋、片桐鎮夫、志田寿一、稲畑勝、松前新太郎、野崎昌輔手島正一、望月昂、木宮高彦虎岩秀郎、松永文夫
- 54 庵原悌次、佐野圭司、居初良雄
- 55 相川富士雄、武井富夫、長沢栄一、法月重雄、中田千束、中野治良、戸塚正五、小沢忠樹、堀江重遠、松井保治、木村康宏(3)、日比光明、塚越修、山本孫一、矢沢六雄
- 56 横森桂、中村治郎、石塚由雄伊東卓爾、清水逸郎、鈴木源一、萩原達雄、村田大八郎、北村甫、竹佐太一
- 57 岩井平一郎、影島利邦、杉山正友、月見里礼次郎、米沢正次、坂田秀雄、久保田誠三(3)
- 58 伊藤健三、島村悟、萩原義臣須山静夫、猪瀬忠賀、望月恵一、安井幸一、鈴木栄三、世古真臣、原木陸雄(4)、土佐光明
- 59 青山勇、奥沢徹、小花敏郎、川田昭(3)、清水汪、福地壺増田真一、三輪潔、近藤陽三原 淳、高橋裕、酒井哲夫、小沢武彦、加藤恵一、菅原操福原元一、田沢義彦、青木豊長谷川邦三、狩野和男、水野哲也、伊藤光雄、大村和夫、曲淵景敏、橋爪壮(6)、柴田宏
- 60 上杉重吉、大石隆一、笠間達男、時田正康、新聞昌輝、原善三郎、逸見昭三、河合睦郎鈴木明、辻村輝彦、山路敬三渡辺博、斉木学、山本正三、野沢栄司、石関忠雄、小林金次(4)、里見元一郎、鈴木正己、柴田正臣
- 61 天野昭、奥野泰助、高村岳史清水照彦、花見久、君島敏男西田駿之介、大村富士男、片桐篤(3)、青木邦彦(4)、大石次男、佐野剛、徳永重遠、鈴木孝(3)、伊藤久、稻森俊
- 62 二、八木貞二、卷田英一、坪田昭三、高山秀男
- 63 海野昭平、鈴木新之輔、三枝弘之、伊東守、大沢三朗、山口澄、小宮鳥夫、香川一郎(5)
- 64 65 鈴木明郎、野沢正憲、村上喜代二、浅井幹夫、岩本吉雄、神谷武男、栗田行雄、佐野旭、名波倉四郎、永田進一長島健、長谷川直和、益頭尚文、吉井駿亮、渡辺素夫、山本和彦、増田誠男、横井一、蛭川博之、松下一男、渡辺宏一、井戸良輔(4)、竹内豊、杉本哲、遠藤栄(5)、仲野実八木綱三、柳田堯、望月康逸塚本光彦
- 66 河守輝雄、久保泰夫、田中俊男(3)、増井和夫、森山秀夫安池智策、山下裕一、安田正弥、小嶋清司、菊田隆裕、馬淵逸明、大坪信之、山梨裕司原野谷朋司、早見幸雄、石川劔二、大村敏夫、武藤勇、藤原朝則、瀬尾章、村松武司、中村伸吾、三原敏、曾根錦吾藤原隆二、佐野栄一、村越立彦、川合勉、永田陽一、内田幸雄
- 67 遠藤一彦、小沢敏二、梶原由三、川上剛二、小坂博、塩沢
- 48 黒水高典(3)、近藤希賢(3)河村祥、大橋広世、岩崎鑑一原崎進一、伏見賢治郎、青木香、佐々木英夫(3)、福永正美、伊藤重久
- 49 菅沼栄、長井広、伴野徳三郎陰山修次
- 50 梶原忠治、住太郎、梅村魁、一一彦、山田喜志夫(4)、大庭富士夫、大庭左文、峰田静夫、田中誠
- 46 内山規、篠原清、久留武、丸杉孝之助
- 47 関口不二夫、星野三郎、片山正二、土井知恵雄
- 45 草野哲、田附敏三、鈴木弥門石上稔、下川猛、柏木千秋、竹下定吉、松林晋一、蝦原一郎
- 44 臼井茂(10)、増井三郎(5)、高橋真一、佐藤文三
- 43 倉沢栄吉、西沢純三、三好由三郎、北里良夫、長戸寛美(3)望月孟夫、吉江誠一、柳沢保雄、松下篤三

事務局よりのお願

①振込用紙は会報発行のたびに、会費の納入済・未納にかかわらず銘々に同封しておりますのでご諒願います。なお、用紙の裏面に必ず期名を記入して下さい。

②住所変更及び勤務先部署等の変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。

③会報及び名簿に新たに広告掲載を希望する方は事務局にお知らせ下さい。

◎各期の幹事は、ぜひ幹事会へ出席してください。もし欠席の場合は代理の方に依頼をお願いいたします。

◎幹事が未定・不明の期では至急幹事を選出して、事務局まで連絡してください。

〒153 目黒区上目黒2-18-13  
山中ビル タカラ歯科医院内  
静中・静高関東同窓会

薬科名雄(87期)  
(電) 〇三三三九二三五八〇  
電話は午後〇時～午後六時に  
お願いします。

FAX 〇三三三九二七八二八

- |                |   |   |   |                |  |   |                             |                   |                    |       |      |           |                              |                               |  |   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|----------------|---|---|---|----------------|--|---|-----------------------------|-------------------|--------------------|-------|------|-----------|------------------------------|-------------------------------|--|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 69             | 68  | 70  | 71  | 72             | 73   | 74  | 75                          | 76                | 77                 | 78    | 79   | 80        | 81                           | 82                            | 83   | 84  | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90 | 91 | 92 | 93 | 94 | 95 | 96 | 97 | 98 | 99 | 100 | 101 | 102 | 103 | 104 | 105 | 106 | 107 | 108 | 109 | 110 |
| 濱、成岡英彦、福原亨一(4) | 矢部正和、後藤弘枝、海野幸雄、秋田和男、徳田武司、安藤竜男(3)、青木庄三郎、石川宏、浦田彰、加藤祐史、小池啓治、本間啓司、村松綏啓(3)、望月祐吉、遠藤幸男、竹井三保子、渡辺弘、松隈道雄、西野章、曾根敏美、奥村鋭一郎、山田卓夫、本間啓司、梅原孝充、三上祐一(3)、玉井輝雄 | 伊月喬、藤波真五、石川堯昭、吉崎英輔、渡辺郁馬、稲葉清神谷貞子、田川邦子、狩野昌夫(3)、原久弥、神谷東洋市川三世史、岩崎修(7)、関哲男、中村竜二、仁科正雄、味岡宏、柳沢伯夫、田中元、若林久二、村松勝治、佐々木政之、渡辺勝美、北村孝、堀西有夫、谷川治弘、石川悟、松永茂、藤巻貞夫、白石通子、吉田修、坂本康、牧野甫、川端正良、遠藤藤弥(4)、大場良臣、遠藤和夫(3)、杉田順 | 大岩蓮、山崎通之助、岩崎敏宏、野方重人、三浦位通、清水雅尚、石山建一、栗田収司、飯田善久、杉浦進、入谷健彦、八木博、深沢直行、増田安久、小本哲明、水野雄三 | 鈴木良彦、堀内淳司、吉田昌史 | 浅井隆善、橋本幸雄、成田恵理子、司馬立(3)、杉本浄、小沢治夫、大塚博史、深津俊郎、池田幸司、永田悟磯谷修平、増井喜一郎、竹田徹、原本昇一、石垣政博 | 平岩正史、薬科名雄、沢井良輔、石渡洋行、芹沢誠、川口代志子、篠田みつ江、塚本寿彦、塩川治郎、鳥巢毅、横山葉子、新井宣夫 | 鳥巢修、川口浩明、杉田達哉、荒井千明、榛葉俊一、平松裕 | 岡村幸彦、英公一、磯部洋祐、上田敏 | 天野充、望月洋伸、岩崎裕史、五十嵐寧 | 望月真希子 | 岩本牧子 | 齊藤光晴、久保大作 | 杉山昌宏、杉山大輔、小泉輝武、山本哲生、鈴木利宗、青柳宏 | 望月麻帆、柴山慎也、小沢滋雄、松下淳一、奥川敦史、渡辺智子 | 位田亜希、前田奈々江、大竹健一、阿形達志、泉山裕次郎、仲村科子、上坂典幸、藤島雄一郎、望月達也、川上勤、山崎真理、見宮大介、洪川清一、望月昭宏、片山大輔、橋本竜太、柴田隆史、山田文野、河尻陽一郎、荒木健太郎、後藤大樹、飯倉周太郎、永田芳子、村松利泰、宮嶋尚頭、浜藤貴哉 | 高塚慶則、小杉清寛、増田徹、鈴木一敏、青木弘倫、塩沢秀明、太田将文、田中満、石井慎人、平将人、鈴木雅之、戸塚茂貴、南条正樹、大石有美、伊藤陽子、田中里枝、増井一慶、石山央樹、志村康行、清水政彦、村上友喜、朝日華子、秋山貴、佐治まさか、筑畑浩樹、箭本正和、青島弘卓 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |

●この欄に記載された諸兄弟姉のご協力に対し敬意を表します。年会費(二千元)未納の方は、同封の振込用紙で早速納付されるより、心からお願ひ申しあげます。

▼お願い▲  
一、この会報についてご意見・ご希望をぜひお寄せください。  
一、同期会報告、回想・随想・詩歌など、会報の原稿をどしどしお送りください。(15字詰め)

◎関東同窓会の運営は會員みなさんの拠金によるほかありません。幹事の方から同期生に呼びかけてくださいませんか。  
郵送料などの値上がりで会報の全員配布も危うくせひご協力のほど。

# タカラ歯科診療所

代表 齋科名雄 (87期)

東横線 中目黒下車徒歩5分  
TEL 0120-376480

診察 日 夜11時まで

## 鈴木株式会社

取締役社長 鈴木通弘 (76期)

清水市入船町11-1  
TEL 0543(54) 3 0 1 5 (秘書課)  
東京支店 千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル4F  
TEL 03(3284) 0 5 5 3 (総務課)

## 新日本証券株式会社

相談役 大石 巖 (53期)  
常務取締役 谷川 治弘 (70期)  
常務取締役 海野 幸雄 (71期)  
国際本部課長 (香港駐在) 小林 一郎 (90期)

東京都千代田区神田駿河台3-11 〒101-03  
TEL 03-3219-1111 (代表)

建築コンサルタント・設計施工業務  
建築に関する御相談は御気軽に……

## 株式会社 大雄

取締役会長 奥野 孝 (53期)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階  
TEL 03-3834-5331 (代表)

建築設計・監理

## 株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野 孝 (53期)

取締役社長 奥野 進 (56期)

取締役副社長 奥野 広 (58期)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル  
Tel 03-3842-6831 (代表)  
静岡事務所 静岡市安東2-8-14  
Tel 054-246-9378

## 日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井平一郎 (57期)

本社 静岡市国吉田3丁目1番1号  
TEL 054(262) 1 1 1 1 (代)  
東京 中央区京橋1-1-6越前屋ビル8F  
TEL 03(3272) 4 6 5 1 (代)

自動車・電機部品の自動塗装及びシルクスクリーン印刷

## 株式会社 勝山塗装工業所

代表取締役 奥澤 徹 (59期)

本社 横浜市瀬谷区橋戸3-25-6 〒246  
Tel 045-301-5545  
大和工場 大和市深見3706-1 〒242  
Tel 0462-62-0340 FAX 0462-62-0343  
東松山工場 東松山市大字新郷88-47 〒355  
Tel 0493-24-2511 FAX 0493-24-2513

富士通電子デバイス特約店・OA機器販売

## 東海デバイス株式会社

(旧社名 東海電気工業株式会社)

顧問 清水照彦 (61期)

本社 東京都目黒区目黒4-6-33  
TEL 03-3791-1181 (代) FAX 03-3715-1558

## 株式会社 富士越

## 株式会社 富士越化成

代表取締役 野澤正憲 (64期)

東京都渋谷区東2-14-9  
TEL (3409) 3 3 4 2 (代)  
TEL (3400) 9 5 4 1 (代)

総合広告代理店

## 株式会社 アドプロ

代表取締役 朝比奈正三 (67期)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階  
TEL 03-3254-2171 (代表)

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科

人間ドック

## 熱函病院

院長 小坂 博 (67期)

住所 熱海市春日町12-2  
TEL 0557-83-3131